

2) 第2回調査(平成27年2月19日実施)

(a)降雨状況

調査日前20日間の降雨状況を図4.4-11に示した。調査日当日には降雨が観察されなかったことから、平常時の陸域調査として実施した。

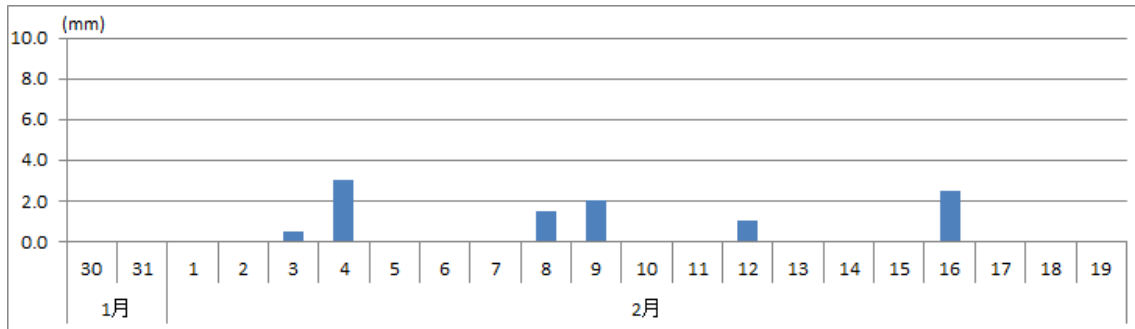


図 4.4-11 調査日前20日間の降雨状況(本部観測所)

(b)流域内状況

陸域調査時の各種位置図を図 4.4-12 に示した。

また、次ページ以降、図内の地点位置の内容について、写真と共に詳細を述べた。

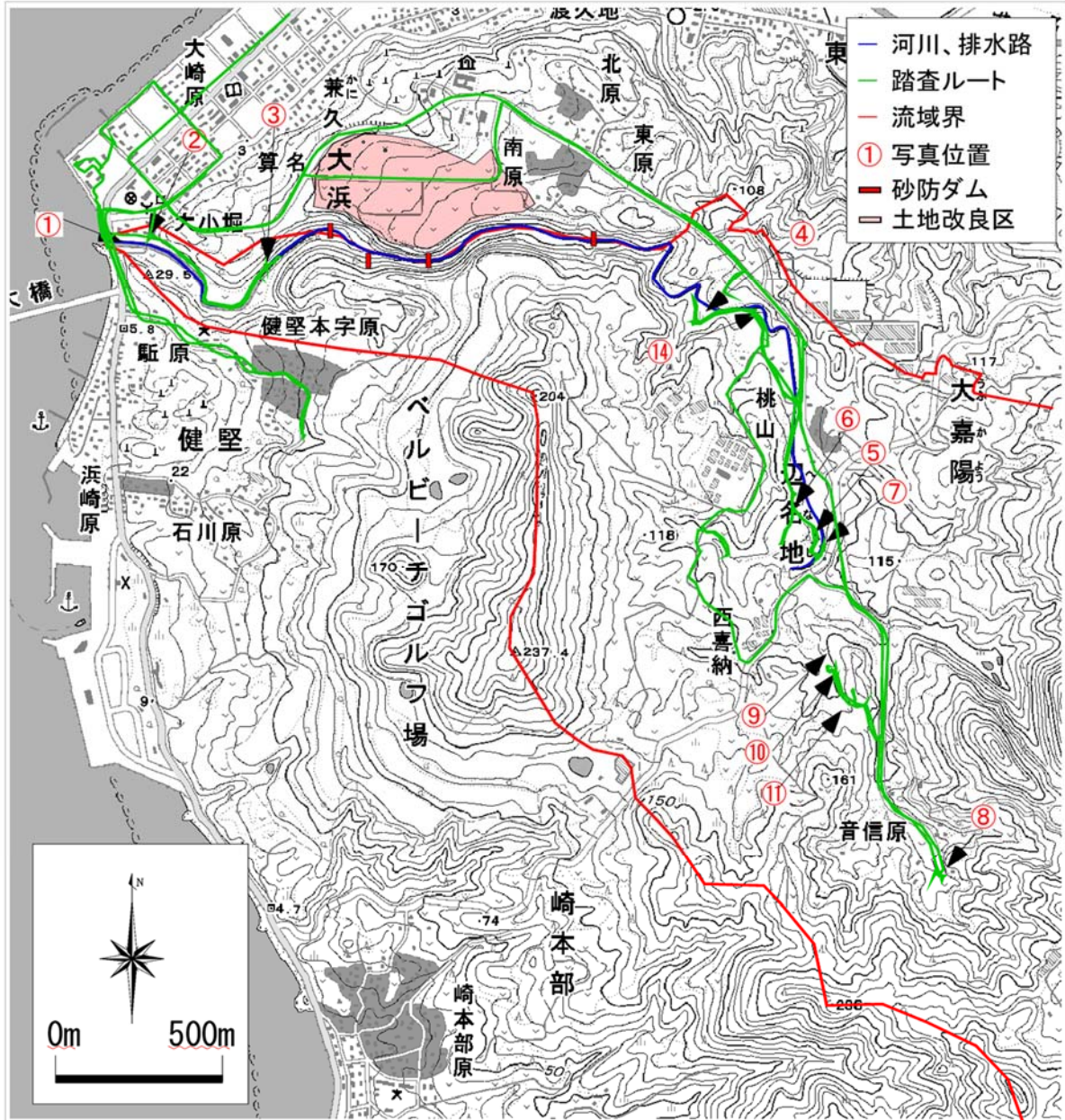


図 4.4-12 大小堀川河口陸域調査位置図(2回目)

- ・ 河口部では、濁りは確認されなかった(地点)。



地点 河口部(濁り無し)(第1回目地点)

- ・ 河口近くの下流域(地点)、地点 の上流にある砂防ダム(地点)において、濁りは確認されなかった。



地点 下流域(濁り無し)(第1回目地点)



地点 下流域砂防ダム(濁り無し)(第1回目調査)

- ・ 第1回調査で確認した新規造成地は、草本に多少覆われ、赤土流出可能性は減少した(地点)。



地点 造成に伴う土砂崩れ箇所(第1回目地点)



地点 造成に伴う土砂崩れ箇所(第1回目地点)

- ・ 昨年度確認した農道整備地奥の裸地は、草本が茂っており赤土流出の可能性が激減した(地点)。またその横の水路においては水が枯れていた(地点)。



地点 農道横の裸地(第1回目地点)



地点 農道横の裸地(第1回目地点)



地点 農道横の河川(水無し)(第1回目地点)

- ・ 第1回目調査時には無かった新規造成地が発見された(地点)。赤土防止条例の看板は無かったが、仮設の沈砂地があった。確認できた盛り土や地点の土質から赤土流出可能性は、他の新規造成地に比べ低いと考えられる。



地点 新規造成地と沈砂池



地点 沈砂池

- ・一昨年度に大規模な造成裸地として確認され、昨年度に畑としての利用が確認された箇所は、現在も畑として利用されていた(地点)。なお、本箇所の面積は、300m×100m ほどである。
- ・赤土等流出防止対策として沈砂池も確認され(地点)、流出可能性は H26 年度第 1 回調査時と変わらないと考えられる。



地点 葉野菜栽培(第1回目地点)



地点 沈砂池(第1回目調査)



地点 パパイヤ栽培(第1回目地点)



地点 畑と沈砂池状況(第1回目地点)

(3) 屋嘉田潟原

1) 第1回調査(平成26年5月27日実施)

(a) 降雨状況

調査日前20日間の降雨状況を図4.4-13に示した。調査日当日には16mmの雨が降ったことから、降雨時の陸域調査として実施した。また、調査当日の毎時雨量を図4.4-14に示した。

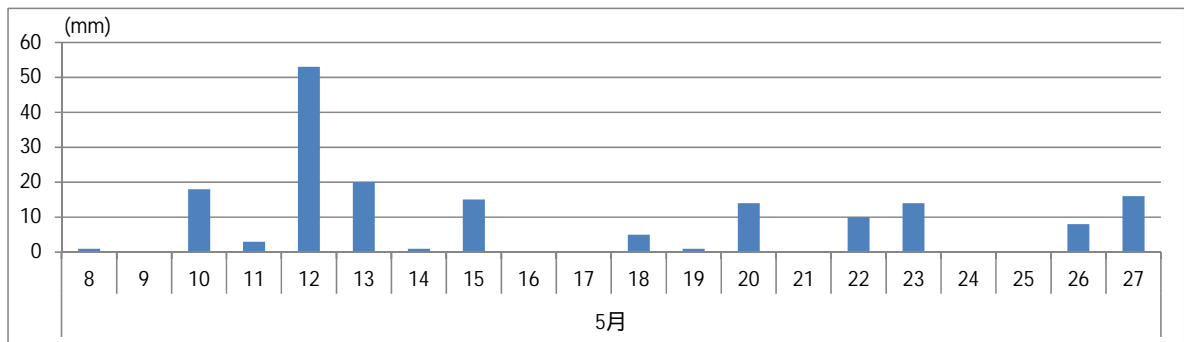


図 4.4-13 調査日前20日間の降雨状況(恩納村)

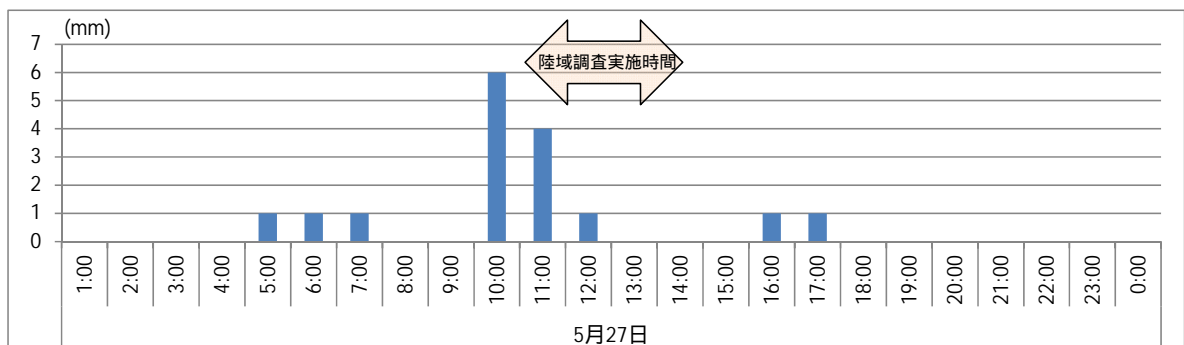


図 4.4-14 踏査当日の降雨状況(恩納村)

(b) 流域内状況

陸域調査時の各種位置図を図 4.4-15 に示した。

また、次ページ以降、図内の地点位置の内容について、写真と共に詳細を述べた。

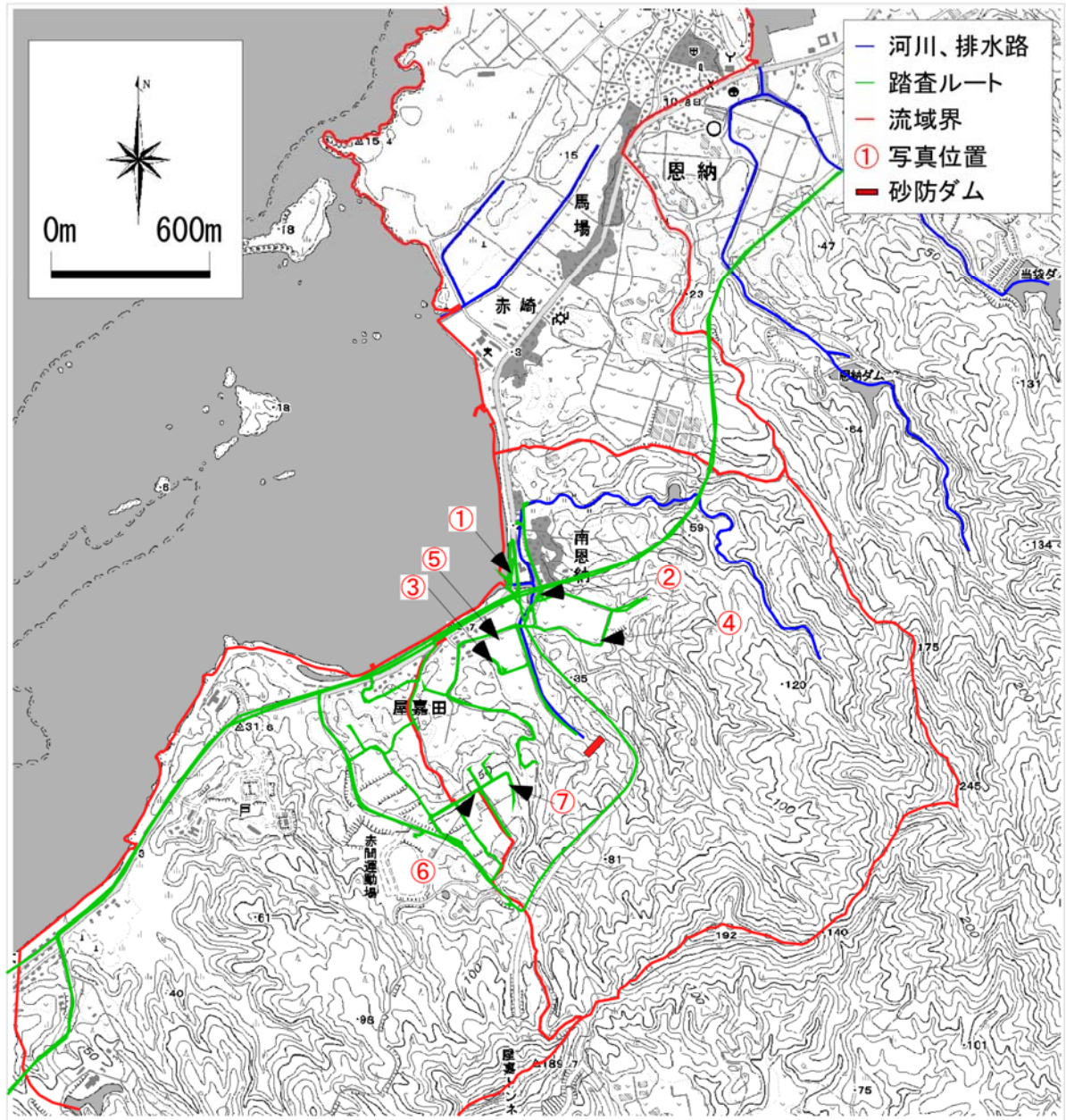


図 4.4-15 屋嘉田潟原 陸域調査位置図(1回目)

- ・ 河口部、河口部近くの湿地において、若干の濁りが確認された(地点)。



地点 河口域(濁り小)



地点 河口直上湿地 (濁り小)

- ・ 昨年度確認した橋梁上部工事は、現在も継続していたが、昨年度同様汚濁防止膜、沈砂池、法面緑化等が実施されていた(地点)。



地点 法面緑化と沈砂池



地点 昨年度第2回調査時の状況

- ・ 昨年度第2回調査時に確認した農地区内水路造成では、若干草本が生えているものの、昨年度同様水路横に裸地がむき出しの状態であり、引き続き流出源として懸念された(地点)。



地点 造成水路横の裸地



地点 造成水路横の裸地



地点 昨年度第2回調査時の状況



地点 昨年度第2回調査時の状況

- ・ 昨年度調査において確認された、流出可能性が高いと思われる地点について、殆どの地点で改善しており流出可能性が減少していた(地点 ~)。



地点 大部分を草本が覆う(改善)



地点 昨年度第2回調査時の状況



地点 ビニルハウス完成により裸地減少(改善)



地点 昨年度第2回調査時の状況



地点 縁に草本が茂り、流出可能性改善



地点 昨年度第2回調査時の状況



地点 造成途中(流出可能性は変化なし)



地点 昨年度第2回調査時の状況

2) 第2回調査(平成27年2月16日実施)

(a) 降雨状況

調査日前20日間の降雨状況を図4.4-17に示した。調査日当日には雨が降っていなかったため陸域調査として実施した。

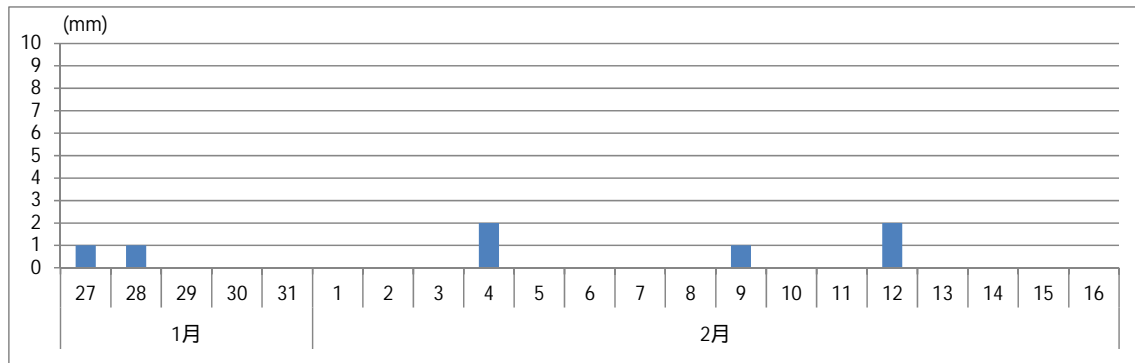


図 4.4-16 調査日前20日間の降雨状況(恩納村)

(b) 流域内状況

陸域調査時の各種位置図を図 4.4-17 に示した。

また、次ページ以降、図内の地点位置の内容について、写真と共に詳細を述べた。

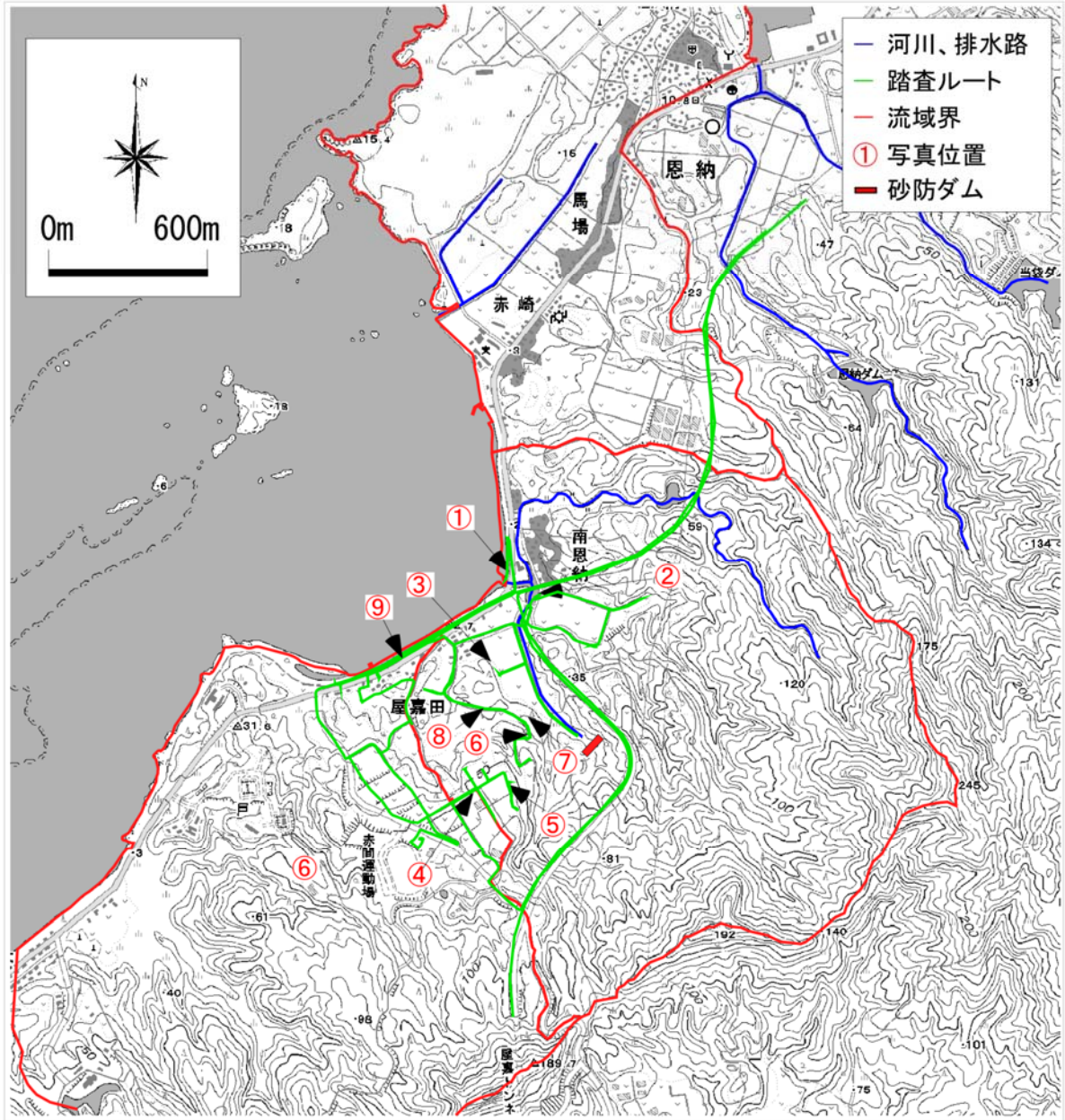


図 4.4-17 屋嘉田潟原 陸域調査位置図(2回目)

- ・ 河口部、河口部近くの湿地において、若干の濁りが確認された(地点)。



地点 河口域(濁り小)



地点 河口直上湿地 (濁り小)

- ・ 昨年度確認した橋梁上部工事は、H26 年度第 1 回調査時同様、継続していたが、昨年度同様汚濁防止膜、沈砂池、法面緑化等が実施されていた(地点)。



地点 法面緑化と沈砂池(1 回目地点)

- ・ 昨年度第 2 回調査時に確認した農地区内水路造成では、H26 年度第 1 回調査時に比べ、草本が増え、赤土流出の可能性は減少した (地点)。



地点 造成水路横の裸地(改善)(1 回目地点)



地点 造成水路横の裸地(改善)(1 回目地点)

- ・ H26 年度調査時に、流出可能性が高いと思われた地点は、殆ど改善しており流出可能性が減少していた(地点)。



地点 辺縁の草本が茂る(改善)(1 回目地点)



地点 ビニルハウス完成により裸地減少(改善)(1 回目地点)

- ・ 流域内の一部の地点では、土砂崩れが発生していた。調査時点では裸地がむき出しとなっており、赤土流出の可能性が高い(地点)。



地点 がけ崩れ後の状況



地点 がけ崩れ後の状況

- ・ 地点 では、新規造成地が確認された。規模は 20m×20m 程度であった。



地点 新規造成地

- ・ 地点 においても、新規造成地が確認された。規模は 140m × 100m 程度であり、赤土防止にかかる看板の掲示が確認された。



地点 新規造成地



地点 赤土防止にかかる看板



地点 工事看板

(4) 平良川河口

1) 第1回調査(平成26年5月13日実施)

(a) 降雨状況

調査日前20日間の降雨状況を図4.4-18に示した。調査日当日には21.5mmの雨が降ったことから、降雨時の陸域調査として実施した。また、調査当日の毎時雨量を図4.4-19に示した。

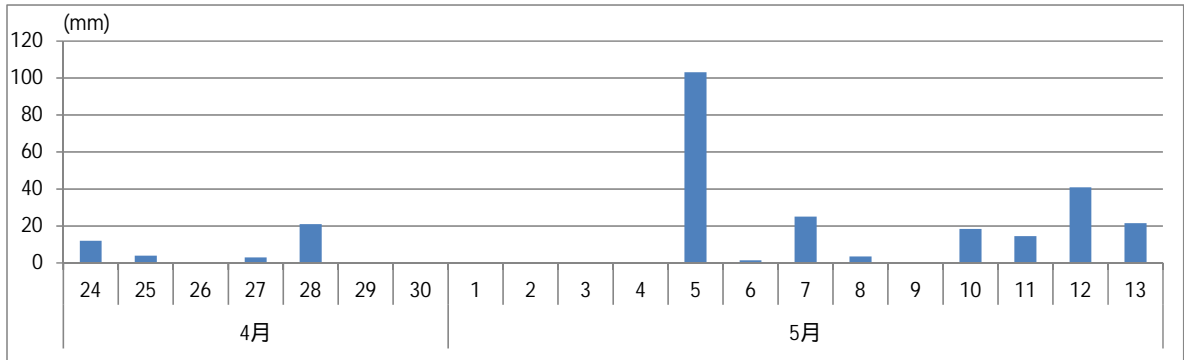


図 4.4-18 調査日前20日間の降雨状況(東観測所)

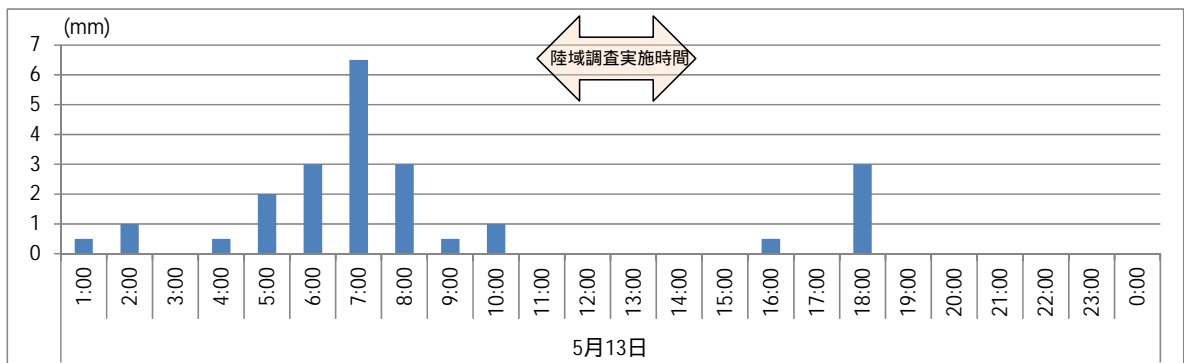


図 4.4-19 踏査当日の降雨状況(東観測所)

(b) 流域内状況

陸域調査時の各種位置図を図 4.4-20 に示した。

また、次ページ以降、図内の地点位置の内容について、写真と共に詳細を述べた。

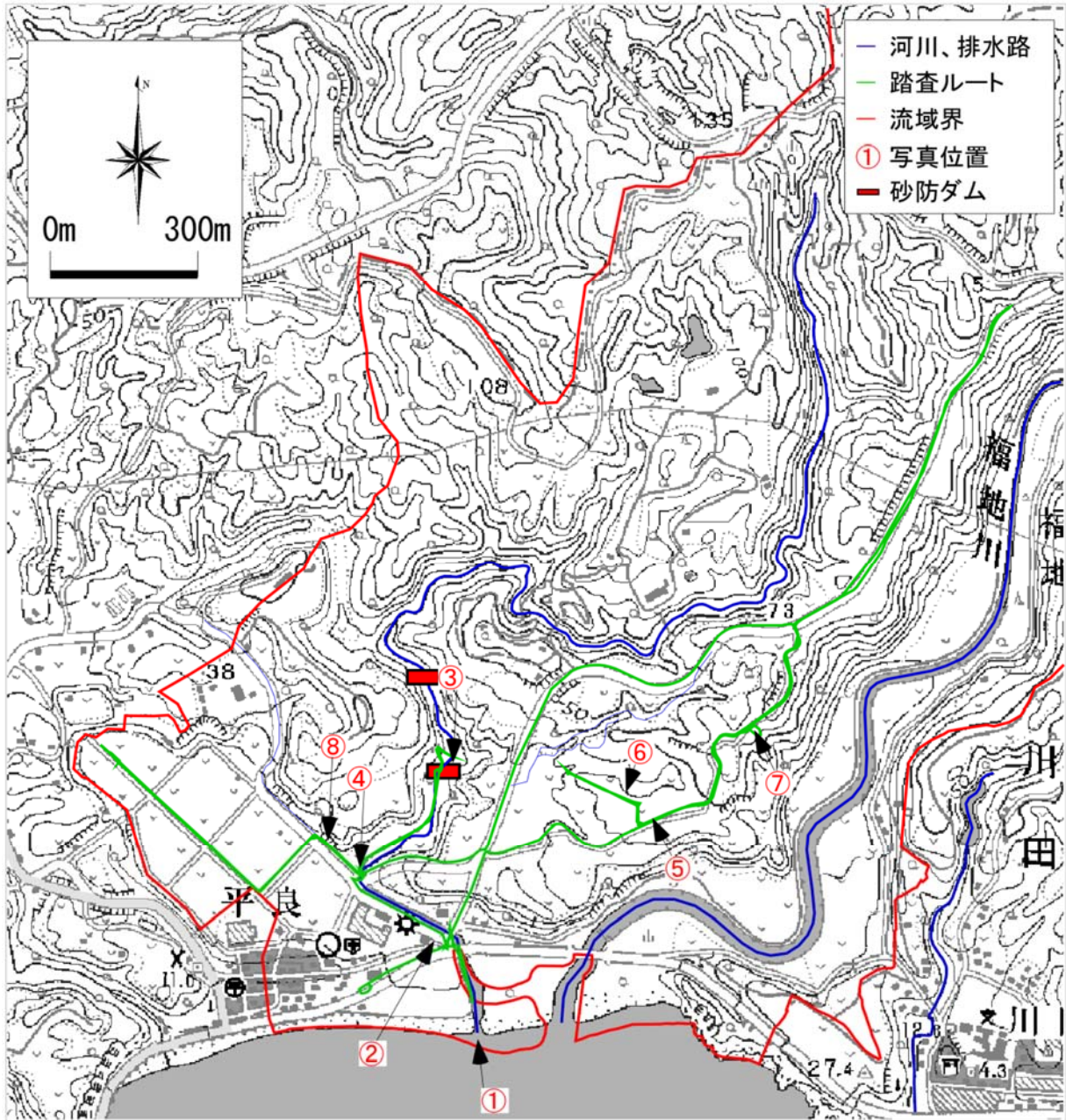


図 4.4-20 平良川河口 陸域調査位置図(1回目)

- ・ 河口においては、濁りは殆ど確認されなかった(地点)が、下流河川においては濁りがあるように見えた(地点)。



地点 河口域(濁り小)



地点 河川域(濁り小)

- ・ 上流の砂防ダムにおいては、放水とともに濁水が越流していた(地点)。砂防ダム直上の土砂の堆積は依然として存在しており、これが濁水源となっていると考えられる



地点 砂防ダムからの放水、越流



地点 砂防ダム越流(直上に堆積土砂あり)

- ・ ただしダム下流の地点 において採水したところ濁度は8.9(度)であり、見た目に見て殆ど濁りは無かった。



地点 河川域(濁りあり)



地点 採水状況

- ・ 流域内にはパイン畑等が広がっており、昨年度同様、裸地がむき出しになり流出源となりうる箇所が複数見られ、道路への流出状況や谷への流出状況が確認された(地点)。



地点 道路への流出痕



地点 パイン畑横の裸地



地点 カンガルーポー栽培



地点 カンガルーポー栽培横の谷への流出

- ・ また、一昨年度に確認された土砂崩れ箇所においては、昨年度第2回調査時には一時的に大型土嚢が撤去されていたが、今回再び設置されており、流出対策が施されており、河川への流出も今回確認されなかった。



地点 土砂崩れ箇所対策



地点 昨年度第2回調査時の状況